

# 家庭教育学級通信

2022年12月  
八代市教育委員会 生涯学習課



子どもと一緒にいる時間を  
どのように使って、何を伝えますか？

長いお休み（夏休みや冬休みなど）や土曜・日曜などは、親子で長い時間を過ごし、学校ではできない体験を一緒にすることができる大切な時間です。

このような機会に他人や周囲への影響を考える視点を学びきっかけにしてはいかがでしょうか。

今回は、「ルールとマナー」「読書」について考えてみましょう。

ルールは、守らなければいけないきまりのことで、違反した場合、罰金や減点などの罰則を課されることがあります。

一方、マナーは「人と人との関わりで、当然、その場面でしかるべきとされる行儀・作法のこと」で、ルールほど厳格ではなく、守るべきものではありませんが、罰則が設けられているわけではありません。大きく評価されるものでもありませんが、「守ることでお互いが気持ちよく過ごすための心遣い」であり、「お互いに大切にしようための知恵」です。

例えば、温泉に行き、2組の親子に遭遇します。

1組目は、お母さんがダメを連発します。子どもたちには表情がありません。「タオルは浴槽に入れちゃダメ」「（水しぶきが他の人にかかり）何やってるの。よその人にお湯がかかったでしょ。いつも向きを変えなさいと言ってるでしょ。ダメじゃない。早く謝りなさい。」「早くしなさい」「石鹸の泡が落ちてない」など姉妹の緊張と悲しみが伝わります。

このお母さんのように、自分も楽しむことを忘れ、子どもにもマナーを守る、守らせるばかりでは、楽しむことはできません。



2組目は、自由奔放な子どもたち。「わー！すごいよ！」「ママ早く！」母親らしきひとりの女性はおしゃべりに夢中で、時々やめなさいとは言いますが、子どもたちは湯船で泳ぐのに夢中になり、結構、湯舟が波立ちます。他の客が端に避けると、母親らしき女性は「すいませ〜ん」とこちらに声をかけた後、子どもに向かって笑いながら「止めなさいと言ったでしょ。ダメじゃない。怒られるわよ。」

他人から怒られるのを理由にお風呂で泳ぐのを止めさせるのは、間違っています。公共のお風呂で泳ぐこと自体がマナー違反ですから、そのことを子どもに話さなければいけません。

家族の楽しい思い出になる機会だからこそ、他人や周囲への影響を考える視点が欲しいものです。

公共の場に子どもを連れだす時、そんな知恵を子どもに伝える良いチャンスです。自分が楽しむことと他人の楽しみも大切に作るバランスを上手に取りながら、マナーも一緒に親子で考えてみてはいかがでしょうか。



## 【本は最高の知育教育】

将来、子どもの人生選択を子ども自身で希望通りに叶えるため、絶対に欠かせない学力を十分つけるという基準で考えたとき、「本を読む」習慣をつけて欲しいと思います。

本は楽しむためのもの。いくら読ませても、読んであげても、勉強嫌いになることはありません。子どもが小さいうちから、出来るだけたくさん、出来るだけ熱心に親から働きかけて、「読書」にかかる時間をたっぷり作ってあげて欲しいと思います。

「勉強ができる子だから、本を読む」のではなく、「本を読んで理解することができるから、勉強ができる」のです。国語力を身に付けさせる近道が「読書」であるともいえます。仮に小学生くらいまではあまり勉強していなくても、それまでの「読書量」の貯金がたっぷりある子は、小学校高学年や中学校くらいで、本気になったらぐっと伸びるのです。

ユダヤ人はひらめきや発想が秀でていると言われますが、子どもの教育で最も大切にしていることが「本をたくさんあげよう」「本でいっぱいの本棚を見せよう」だそうです。子どもの知的好奇心が刺激され、自然に読書の世界へと入っていき、たくさん本を読むようになり、賢くなっていくというのです。

できるだけ「本が家にあるのが当たり前」の状況をつくる努力をし、親が本を読む姿を子どもにみせ、親子で本の話が出るようになれば本物です。

「文章を読むこと」「文字を書くこと」はすべての学習の基礎であり、考える手段としても、人とのコミュニケーションをとるためにも日本語＝国語の能力は欠かせません。

夏休みの宿題で、興味のない本を無理やり読まされたり、感想文を書かされたり・・・と読書を嫌がる子どもも多いようですが、子どもと話し合っ、親子で読書に親しんでみてはいかがでしょうか。

### 親子で読書に親しむ5つのポイント

- ① 読む本は、子どもが選ぶ⇒子どもの興味のあることを楽しくできる
- ② 読書は1日10分だけ⇒短時間で、苦しくない
- ③ ママ（パパ）も家事や仕事をやめて一緒に読む  
⇒親に支えられている。親と一緒に行動し、応援の言葉や肯定の気持ちが伝えられる
- ④ テレビは消す
- ⑤ ママ（パパ）は感想を聞かない

最初の何日かは、あくびをしたり、寝ころがったりとなかなか集中できないかもしれません。図鑑、絵本、攻略本、歴史漫画など挿絵が多い読み物で構いません。子どもの肩や背中に手を置きながら、黙って本を読み続けてみましょう。

コロナ禍でたいへんな中ではありますが、上手にストレスを解消しながら、親子のふれあいを通して子育て・自分育てをしてみましょう。



参考ウェブサイト

●千葉県白井市

<https://www.city.shiroi.chiba.jp/kyoiku/gakko/g02/1430548753357.html>

発行・編集：

八代市教育委員会 生涯学習課

問い合わせ：

0965-30-1110

syogai@city.yatsushiro.lg.jp

新しい風、生涯学習。



デザイン：石森 章太郎  
生涯学習のマスコット「マナビー」